

ふくしま

第130号

令和3年6月1日発行

議会だより

発行：福島町議会

Tel 0139-47-2215

(題字：福島小学校2年生 うえだ こうせい くん)

写真提供：福島フォトサークル

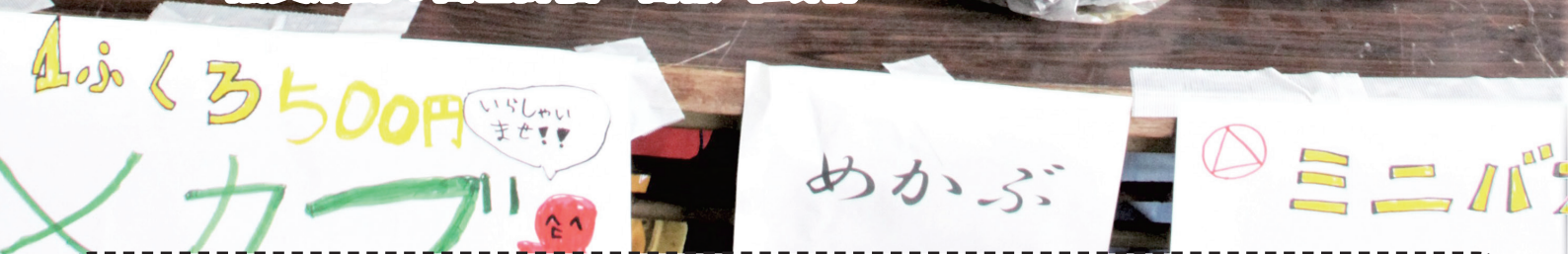
5/2 漁協青年部物販販売を手伝う子どもたち



P 2 4月からの介護保険料、5,600円に据え置き!! ... 定例会3月会議

P 9 4名の議員が町政をたずね ... 夜間議会(一般質問)

P27 議員活動の自己評価・目標(公約)



ふくしま ふくしま ふくしま

福島小学校2年生 さかぐち みお ちゃん

福島小学校2年生 ばたい きさき ちゃん

福島小学校2年生 むらた のい ちゃん

5,600円に据え置き!!

「生活支援」、「住まい」が
環境の実現を目指して～



介護保険の事業（運動教室）

定例会3月会議は、3月8日に開会し11日閉会しました。
会議では、条例の制定・一部改正・廃止、計画の策定・変更、各会計の新年度予算など町長提出の議案26件と議会提出議案1件の合計27件を審議、原案のとおり可決し、1件の報告を受けました。
各会計の新年度予算は、予算審査特別委員会に付託、審議し、すべて原案のとおり可決しました。
会期中の参画者は6名でした。

条例の制定・

一部改正・廃止

○議会議員・町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定

公職選挙法の改正により、議員・町長選挙のポスター作成などの経費を一定の限度額まで町で負担する条例を制定。

○ふるさと暮らし応援条例の一部改正

住宅の新築または中古住宅の購入のみ助成であったが、現在住んでいる住宅を建て替えて新築する場合も対象とする改正。

○介護保険条例の一部改正

保険料の基準額などを新しい計画の内容へ変更するための改正。



○指定居宅サービス等の事業の人員、設備・運営に関する基準等の一部を改正する省令等に基づく関係条例の整理

国の基準改正に合わせて次の4条例を改正。

・指定地域密着型サービスの事業の人員、設備・運営に関する基準を定める条例

・指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備・運営・指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例

・指定介護予防支援等の事業の人員・運営・指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例

・指定居宅介護支援等の人員・運営に関する基準を定める条例

○漁業経営健全化促進資金利子補給条例の廃止

貸付を受けた漁業者の償還がすべて終了したため廃止。

定例会 3月会議

4月からの介護保険料

～「医療」・「介護」・「予防」・
一体的に提供され生活できる

補正予算の内容

事業の完了等により不用となった予算の減額などで補正した各会計の予算については、左記の表のとおりです。

単位：千円

会 計 名	補 正 額	補正後の 予算総額
一般会計（第10号）	△ 166,917	4,675,987
国民健康保険特別会計（第4号）	7,978	788,256
介護保険特別会計（第3号）	△ 5,357	543,796
後期高齢者医療特別会計（第3号）	△ 1,463	71,068
浄化槽整備特別会計（第2号）	△ 3,317	48,561
国民健康保険診療所特別会計（第4号）	411	92,508
水道事業会計（第4号）	△ 26,966	295,524

基金の処分

○財政調整基金の積立金の処分

令和3年度予算の財源不足を補填するため、3億5,000万円を取り崩して一般会計へ繰入れ。

計画の決定・変更

○第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の決定

令和3～5年度の保険料の基準額などを決める計画の策定。

○第5次総合計画の変更

令和3年度の予算編成により事業の見直しや変更・追加があったため変更。
変更後の総事業費は56億6,140万円。

新しく追加となった事業



福島小学校南側校舎外壁補修工事
400万円 ほか9事業を追加

○森林整備計画の変更

北海道の地域森林計画と整合性を図るため変更。

議会関係の条例改正

○議会議事条例の一部改正

全国の標準となる会議規則の改正により、議員の活動と家庭生活の両面を支援するため、出産・育児・介護などが理由の欠席を認める改正。

報 告

○専決した事件の報告

落雪事故による損害賠償の金額が決定したことの報告。

同意・諮問

○固定資産評価委員会委員の選任

岡観要氏（再）、野村隆浩氏（新）の選任に同意。

○人権擁護委員の推薦

川合正子氏を人権擁護委員（再）として、適任であると答申。

※令和3年度の「予算審査特別委員会」の内容については、11ページから掲載しております。

平沼昌平議員 全国町村議会議長会表彰

平沼昌平議員がこの度、全国町村議会議長会表彰規程（15年以上在職）により、自治功労者として表彰されました。

定例会3月会議の開催前に、溝部議長より表彰状が伝達されました。



○全国町村議会議長会
表彰対象者

①議員として15年以上在職

②議員として27年以上在職

③議員として50年以上在職（名誉町村議会議員表彰）

④議長として7年以上在職

令和3年度 議会費の使い道 前年度より86万5千円の減額

単位：千円

区 分	令和3年度	令和2年度	増 減	概 要
報 酬	24,531	24,531	0	議員歳費24,456、 ^{しもん} 諮問会議委員報酬75
給 料	12,373	10,734	1,639	事務局職員4名分（会計年度任用職員1名含）
手 当 等	16,624	14,722	1,902	議員期末手当10,430、職員期末手当等6,194
共 済 費	13,531	14,358	△ 827	議員共済等7,811、職員共済等5,720
報 償 費	100	100	0	専門的知見謝金（審査・調査）
旅 費	1,703	2,040	△ 337	普通旅費651、視察研修旅費655、職員旅費138 同行旅費140、委員費用弁償12、委員旅費107
交 際 費	200	200	0	議会としての慶弔費など
需 用 費	1,093	1,104	△ 11	議会だより印刷製本費762、消耗品費等331
使 用 料・ 賃 借 料	166	166	0	議会ホームページ単独運用（使用料）41、 インターネット中継回線利用料等125
備品購入費	0	20	△ 20	管理用備品購入費
負 担 金・ 補助・交付金	1,818	1,812	6	管内議長会等414、四町議員協議会135 議員公務災害補償組合69、政務活動費1,200
償 還 金・ 利子・割引料	1,083	4,300	△ 3,217	備荒資金組合への償還金（議会中継システム更新）
合 計	73,222	74,087	△ 865	*事務局職員4名分の給料等は、「職員・会計年度任用職員 給与費」に計上されているため、議会費の予算額と一致 しません。

定例会 1 月会議

定例会 1 月会議は、1 月 19 日に開会されました。
会議では、補正予算 1 件を審議し、原案のとおり
可決されました。
参画者は 2 名でした。

忘年会中止で大打撃 !! 飲食店やスナック等を支援 !!

補正予算の内容

- ふるさと応援基金運営費 **752万円の追加**
ふるさと納税寄付者が増えたため、返礼品を贈呈する経費
- ふるさと応援基金費 **1,000万円の追加**
ふるさと納税寄付者が増えたため、基金へ積立
- 新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費 **393万2千円の追加**
ワクチン接種用クーポン券の作成や必要物品の購入
- 地域経済緊急支援事業費 **510万円の追加**
忘年会・新年会が中止となった飲食店への支援
- 道路維持費 **3,000万円の追加**
大雪による道路等の除排雪経費

単位：千円

会計名	補正額	補正後の 予算総額
一般会計(第8号)	56,552	4,746,854

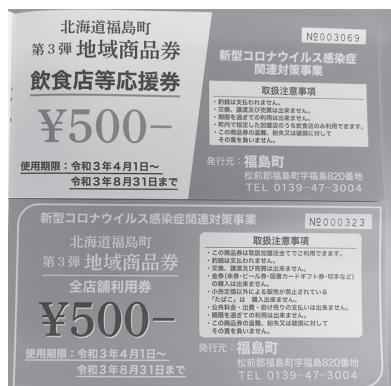


定例会 2 月会議

定例会 2 月会議は、2 月 22 日に開会されました。
会議では、補正予算 1 件を審議し、原案のとおり
可決されました。
参画者は 1 名でした。

第3弾 !! 地域商品券を発行 !!

※使えるのは8月31日までです。
→ 地域商品券



単位：千円

会計名	補正額	補正後の 予算総額
一般会計(第9号)	96,050	4,842,904

補正予算の内容

- 高齢者屋根の雪下し・除排雪費用助成事業費 **50万円の追加**
屋根の雪下ろしや家屋周辺の除排雪の助成
- 地域経済緊急支援事業費 **4,385万円の追加**
地域商品券の発行、酒類を提供する小売店への支援
- 福島町元気プロジェクト事業費 **170万円の追加**
地元食材を使用したメニューを開発、町内飲食店で提供するためのプロジェクト
- 道路維持費 **5,000万円の追加**
大雪による道路等の除排雪経費

定例会3月第2回会議

定例会3月第2回会議は、3月29日に開会されました。
会議では、条例の一部改正1件、補正予算3件を審議し、原案のとおり可決されました。
参画者は2名でした。

新型コロナウイルスワクチン 85歳以上の高齢者から集団接種開始 !!

補正予算の主な内容

◆令和3年度一般会計補正予算（第1号）

○新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費
2,162万2千円の追加
集団接種するための人件費や必要な物品の購入

○新型コロナウイルスワクチン接種事業費
1,642万9千円の追加
個人接種するための医療機関への委託料

◆令和2年度一般会計補正予算（第11号）

○戸籍住民基本台帳費
37万4千円の追加
マイナンバーカード事務の委任負担金

○公共施設維持保全基金費
5,000万円の追加
国からの特別交付税が確定したことにより財源を調整した分を基金へ積立

○道路維持費
200万円の追加
大雪による道路等の除排雪経費

◆令和2年度国民健康保険特別会計補正予算（第5号）

○一般被保険者保険税還付金
150万円の追加
新型コロナウイルスの影響で保険税の減免を受ける方への還付金

条例の一部改正

◆職員の給与に関する条例の一部改正

役場職員の給与は、この条例（給料表）に基づき支給されています。役職によって等級の基準があり（係長だと3級など）、新しく診療所の「看護師長」、認定こども園の「園長」を追加するための改正。

令和3年度 単位：千円

会計名	補正額	補正後の 予算総額
一般会計(第1号)	38,051	4,122,897



新型コロナウイルスワクチン集団接種の様子



除排雪の様子

令和2年度 単位：千円

会計名	補正額	補正後の 予算総額
一般会計(第11号)	54,054	4,730,041
国保健康保険(第5号)	1,500	789,756

各議案の審議結果



定例会3月会議採決の様子

- ・賛成が○、反対は×、病欠は△、欠席は欠と表示しています。
- ・溝部幸基議長は採決には加わりません。

会議名	議案番号	議 案	花田 勇	佐藤孝男	平沼昌平	木村 隆	川村明雄	杉村志朗	藤山 大	小鹿昭義	平野隆雄	審査結果
1月会議 (1/19)	44	令和2年度一般会計補正予算(第8号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
2月会議 (2/22)	45	令和2年度一般会計補正予算(第9号)	○	○	○	○	○	○	○	△	○	原案可決
3月会議 (3/8・11)	46	議会議員・町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	47	ふるさと暮らし応援条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	48	介護保険条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	49	指定居宅サービス等の事業の人員、設備・運営に関する基準の一部を改正する省令等に基づく関係条例の整理	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	50	漁業経営健全化促進資金利子補給条例の廃止	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	51	第5次総合計画の変更	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	52	森林整備計画の変更	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	53	第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の決定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	54	令和3年度一般会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	55	令和3年度国民健康保険特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	56	令和3年度介護保険特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	57	令和3年度後期高齢者医療特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	58	令和3年度浄化槽整備特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	59	令和3年度国民健康保険診療所特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	60	令和3年度水道事業会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	61	財政調整基金の積立金の処分	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

会 議 名	議 案 番 号	議 案	議 員 名								審 査 結 果
			花 田 勇	佐 藤 孝 男	平 沼 昌 平	木 村 隆	川 村 明 雄	杉 村 志 朗	藤 山 大	小 鹿 昭 義	
3月 会議 (3/8・11)	62	令和2年町一般会計補正予算（第10号）	○	○	○	○	○	○	○	○	原案 可決
	63	令和2年度国民健康保険特別会計補正予算（第4号）	○	○	○	○	○	○	○	○	
	64	令和2年度介護保険特別会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	
	65	令和2年度後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	○	○	○	
	66	令和2年度浄化槽整備特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	
	67	令和2年度国民健康保険診療所特別会計補正予算（第4号）	○	○	○	○	○	○	○	○	
	68	令和2年度水道事業会計補正予算（第4号）	○	○	○	○	○	○	○	○	原案 同意
	同意2	固定資産評価審査委員の選任	○	○	○	○	○	○	○	○	
	同意3	固定資産評価審査委員の選任	×	○	○	○	○	○	○	○	原案 適任
	諮問2	人権擁護委員の推薦	○	○	○	○	○	○	○	○	
報告4	専決処分した事件の報告	※採決はありません								報告 済み	
発委10	議会会議条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	原案 可決	
3月 第2回 会議 (3/29)	69	職員の給与に関する条例の一部改正	○	○	○	欠	○	○	○	○	原案 可決
	70	令和2年度一般会計補正予算（第11号）	○	○	○	欠	○	○	○	○	
	71	令和2年度国民健康保険特別会計補正予算（第5号）	○	○	○	欠	○	○	○	○	
	72	令和3年度一般会計補正予算（第1号）	○	○	○	欠	○	○	○	○	



夜間議会(一般質問)

3月8日に夜間議会を開催しました。
4名の議員から4問の一般質問があり、町の対応や考え方をいただきました。
質問・答弁を抜粋・要約して掲載しております。

町事業の成果と検証の周知を

円滑な情報共有に取り組む

【小鹿昭義議員】

町民から、町が実施した事業について、事業の内容や成果を、詳細に周知してほしいとの意見がある。

①なぜ、様々な公設民営的団体に人的・補助金的支援を行っているのか。

②福島町がんばる地元企業応援条例等についても経済効果がどの程度あったのかなど、事業の経過・成果について町民と十分に情報共有出来ていないと感じるがどうか。

また、今後の住民周知について、どう対応していくか伺う。



小鹿 昭義 議員

【鳴海清春町長】

町が行っている様々な公設民営的団体への支援については、地方自治法の規定に基づき議会の承認のもと交付している。

福島町がんばる地元企業応援条例による経済効果等については、施設投資により事業者の生産拡大や作業の効率化が図られ事業継続意欲を促す誘因になったものと検証している。

町が実施する各種事業の検証等については「事務・事業行政評価」等での公表のほか、例年開催している町政懇談会の場でも報告している。

町民と町が情報を共有することは、まちづくりに欠かすことができない重要な要素であると認識しており、今後も町民にわかりやすい情報提供に努め、円滑に情報共有が図られるよう取り組む。

ふるさと暮らし応援条例等の見直しを

受給要件を拡大(改正)する

【川村明雄議員】

ふるさと暮らしを考える人を一人でも増やし、未来豊かな町に転換するため、住みやすい対策への変革を提言し、考えを伺う。

①定住促進住宅等奨励事業のこれまでの実績は

②条例に定める基準(購入金額500万円以上)は現在の土地等売買実態に合っていると考えるか

③補助対象の拡大(低額取得リフォーム等)を行ってはどうか

④空き家解体助成事業・ふるさと暮らし応援条例の抜本的改正が必要ではないか



川村 明雄 議員

【鳴海清春町長】

①令和2年度までに23名に交付(新築19名、中古住宅購入4名)

②町内の市場価格から妥当な結果から、現在の基準が適正と判断している。

③リフォーム費用への支援については、定住目的以外の棲み分けが必要で、新たな助成制度の構築が必要となる。

④空家等除却補助金は建て替え除却、売買目的での解体を対象としていないため見直しはしないが、ふるさと暮らし応援条例については、既存住宅の建て替えについても対象となる改正を行う。

人口減少が続く当町において定住を促進するためには住まいの確保が重要と認識しており、条例に加え福島町住生活基本計画を策定し、住宅環境の充実を図り、各世代による定住促進に取り組む。

ワクチン接種体制の構築状況は 情報が少なく対応に苦慮

【木村 隆議員】

新型コロナウイルスワクチンの町における接種体制について伺う。

- ① 医療従事者等の接種場所・時期
- ② 高齢者の接種率の見込み
- ③ 接種開始時期・接種券の配布時期は
- ④ 接種方法は
- ⑤ 集団接種とした場合の会場・日程は
- ⑥ 接種の予約方法は
- ⑦ 在宅療養者等への接種対応
- ⑧ 副反応への対応
- ⑨ ワクチン接種についての積極的な情報発信に対する見解



木村 隆 議員

【鳴海清春町長】

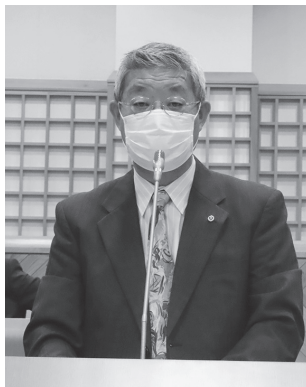
- ① 3月1日時点でどちらも未定
- ② 70%
- ③ 現時点で想定は困難だが接種券は3月末までに配布予定
- ④ 集団接種と個別接種の併用
- ⑤ 総合体育館において平日以外で実施
- ⑥ 検討中だがインターネットでの対応はしない方向
- ⑦ かかりつけ医による在宅等での対応を想定
- ⑧ 接種場所以外での対応は医療機関若しくは救急
- ⑨ 町広報やホームページ、防災無線を活用した情報発信を行っていくが、感染者への影響も考慮し慎重に周知する。

国道沿いの除排雪の在り方を問う 改善に向けた要望を継続していく

【平沼昌平議員】

国道の除排雪の在り方について国道沿線地区の方々から毎年要望を聞くが、住民も高齢化し日々の除雪作業に対して苦情も多くなってきたことから、生活路の確保や交通安全の観点から町内業者を専属に配置するなど、町として独自に対応する事も検討する必要があると考えるがどうか。

吉岡地区の流雪溝の投雪口の在り方についても同様の観点から検討が必要と考えるが、町の考えを伺う。



平沼 昌平 議員

【鳴海清春町長】

国道の除排雪については毎年、意見・要望しているが、限られた予算と時間の制約の中で現行の除排雪方法を大きく変更することは困難であるとの回答を受けているが、高齢化により年々国道周辺の町民の除排雪作業が厳しくなってきたことから、引き続き、国・道に対して改善に向けた要望を継続していく。

町独自の対応については、私も町民から意見を聞いており同様の考えを持つているが、国の管轄権の問題や、町の除排雪費用の状況から単独での予算措置に関しては困難と考えている。

吉岡地区の流雪溝の在り方については、整備当時と状況が大きく変化しており、町内会等と意見交換する場を設けて、新たな方向性を早期に確立したい。

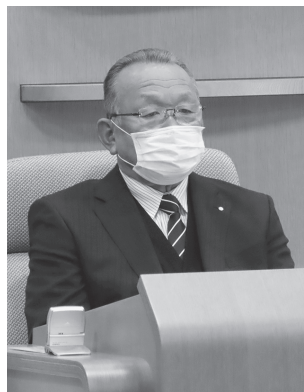
令和3年度

7会計を含む12件の議案を可決。

7会計予算総額 58億5,321万円 (一般会計予算40億8,484万円)

※質疑・応答は、要約し抜粋を記載しています。
掲載の順番は、第5次総合計画のまちづくり項目の順番です。

予算審査特別委員会



平野隆雄予算審査特別委員長

産業の再生による雇用の創出・次世代を担うリーダー等の育成

◎水産業、水産加工工業

問 花田委員 製氷貯氷施設の管理委託費220万。氷の売り上げを除いた経費の内訳と今後見直しは行うのか。

答 委託料は、施設建設時直近3年間の販売実績を基にした見込み額を差し引いた維持管理に係る人件費、光熱水費等になる。管理委託料の見直しは、一定期間で見直すこと

になっている。

◎農業

問 杉村委員 熊や鹿の駆除の状況を知らせていただきたい。

答 熊については三岳、千軒地区で多く獲れている。鹿は全町的に獲れているが、やはり三岳、千軒地区が多い。

◎商工業、地場産品

問 溝部議長 地場産業開発研究会の実績を踏まえると、在り方について整理する段階と考えるがどうか。

答 協議会は従来、水産加工を中心にやっていたが、活動の幅が広くない。一定程度当初の目標を達成したと思うので、来年度予算までに整理できるよう協議していく。

◎観光、交流

問 佐藤委員 九重部屋の夏

合宿が予定されているが、今の時点で部屋とは折衝されているのか。

答 九重部屋とは現時点では折衝出来ていない。新型コロナウイルスにより相撲協会も大変厳しい状況があり、九重部屋からも感染者を出しているので連絡は控えている。3月場所が終わり、ある程度落ち着いたら時点で、親方と一度整理したいと考えている。

問 平沼委員 観光情報発信事業費、観光協会等の体制強化は、何が課題となっているのか。

答 観光協会の専属職員がいない状態が続いており、商工会の会員を中心に活動しているが、人的体制をすぐには手当てできないため、少しコンパクトにしながら、若返りをはかれるよう協力していく。

町民の安心安全な暮らし

◎保健予防・健康づくり

問 平沼委員 吉岡温泉の整備計画について、町民、利用者の意見を反映させる考えがあるか伺う。また、入浴料等の見直しも検討する良いタイミングではないかと思うがどうか。



新築が検討されている吉岡温泉

答 今回はプロポーザル方式で行いたい。毎日利用されている人の意見を吸い上げる手法が良いと考える。時間の制約はあるが、しっかりと町としての思いをぶつけることが大事だ。

料金の見直しについても、検討する余地はあると考えるので、議論していきたい。

◎地域福祉

問 小鹿委員 高齢者の中には、大雪で屋根の雪下ろしを業者に依頼したくても、町の基準額4万円を超える経費が必要で利用できない実態がある。利用者に使い勝手の良い制度に見直すべきと思うが、考えを伺う。

答 重機等使用した場合の経費が高額になっていることは認識している。当初ここまで大雪を想定していなかったため、今年状況等を検証し制度の見直しが必要と判断した

際は、新たな制度設計を行う必要があると考えている。

◎ごみ処理、リサイクル

問 平沼委員 福島町はごみの排出量が渡島でも突出している。これまでも減量化対策を行っているが効果が見えてこない中で、町民に理解してもらうためにも、啓発の方法等を見直す必要があると思うが、考えを伺う。

答 ごみの減量化については新たな段階に踏み込む必要がある。今後、人口が減り、財政規模が小さくなる中でいかに経費を削減していくかを自治体が競い合う時代になる。ごみの減量化を町民と真剣に議論していく必要があり、抜本的な対策に向けた第1歩を踏み出せる様検討していく。

豊かな環境と若者等の定住対策・子育て環境の充実

◎道路網

問 溝部議長 懇談会において、白符地区の住民から町道の側溝が猫の巣になっているとの意見があった。今回の町道整備で側溝に猫が入る可能性はないのか、付近の町道側溝への猫の侵入等の状況は把握しているか、苦情を受けているか伺う。

答 白符地区の猫の問題は聞いているが、町道に関する猫の苦情は受けていない。蓋の隙間から侵入することはあると思うが、特別な側溝を設置する予定はなく、猫については別に対応する必要があると考えている。

学び合い、
たくましい人を育てる

◎幼児教育、学校教育

問 平沼委員 福島商業高校の存続対策について、執行方針で、生徒確保の方策として全国募集とあるが、その手法等について伺う。

答 全国募集については、まず寮を建設して受け入れ体制を整備したい。

全国募集を行っている先進地で作っている全国協議会に参画し、地域留学フェスタやオンラインでの就学相談を活用する等、教育課程の充実と合わせて取り組んでいく。

問 平沼委員 執行方針において吉岡小学校の児童数が令和3年度9名になり、小学校の在り方について保護者や地域と協議していくとあるが、タイムスケジュールと協議の

内容について伺う。



吉岡小学校の授業の様子

答 吉岡小学校については、児童数が10人を切った際に何らかのアクションをとることで議論が推移してきた。6月頃に第1回目の協議を行った。アンケート等も行い、9月頃を目途に一定の方向性を見出して行きたいと考えているが、廃校・統合ありきではなく、地域の意向をくみ取り、地域の意向に沿った吉岡小の在り方を考えていきたい。

◎芸術文化、文化財

問 小鹿委員 チロップ館運営の課題。旧白符小学校校舎も老朽化がかなり進んでいる。早急に移転するべきと考えるが、どうか。

答 このままの使用には大規模改修が必要と報告を受けている。建て替えは考えていないので、収蔵物の展示等については、道の駅や公共施設の活用でカバーすることを考え、ここ数年は修繕で対応していく。

協同のまちづくり・

行財政運営の充実

◎広報広聴

問 藤山委員 第2青函トンネルをPRする予算が計上されていない。町民からの関心と期待が高くなっており「のぼり」や「垂れ幕」を設置してはどうかとの声も聞かれるのでPR費を計上してはどうか。

答 第2青函トンネルのPRについては、町で構想を実現する会を立ち上げ、会を中心に機運を高めていくという考えがあるため、会の事業計画、事業予算で決定していくものと考えている。



役場庁舎のPR垂れ幕

◎財政運営

問 川村委員 固定資産税に
関連して。現況と登記簿上の
地目の相違について定期的な
調査は行っているのか。

答 担当者が都度確認し、窓
口等において指摘があった場
合には随時対応している。案
件等があった際には固定資産
評価委員会において整理して
いる。

問 佐藤委員 令和2年度に
滞納整理機構へ移管した滞納
税の結果は。現在、差し押さ
え等が行われているのか？

答 令和2年度の結果は、移
管金額473万8,768円
に対し、徴収金額389万6,
888円で、徴収率は82.
23%となっている。
差し押さえについては、こ
れまでに5件行われている。



ふるさと納税返礼品の一部
(返礼品は約100種類あります。)

問 木村委員 ふるさと納税
を伸ばしていくためには返礼
品の種類を増やす必要がある。
町外で加工された町ゆか
りの商品を町の特産品として
出せないものか伺う。

答 町にゆかりの商品につい
ては、一部返礼品として出し
ている。国の通達で特産品の
定義が示されており、それに
沿ったものは取り扱いが可能
と考えているので、町内の業
者の協力を頂きながら返礼品
を増やしていきたいと考えて
いる。

令和3年度 各会計予算総額(前年対比) (単位:千円)

会 計 名	令和3年度	令和2年度	増 減	増減率%
① 一 般 会 計	4,084,846	3,703,478	381,368	10.3
② 国民健康保険特別会計	760,760	774,234	△ 13,474	△ 1.7
③ 介護保険特別会計	541,919	530,963	10,956	2.1
保 険 事 業 勘 定	540,173	528,870	11,303	2.1
サ ー ビ ス 事 業 勘 定	1,746	2,093	△ 347	△ 16.6
④ 後期高齢者医療特別会計	71,897	69,500	2,397	3.4
⑤ 浄化槽整備特別会計	64,100	45,770	18,330	40.0
⑥ 国民健康保険診療所特別会計	93,224	84,831	8,393	9.9
⑦ 水道事業会計	236,473	313,136	△ 76,663	△ 24.5
7会計 合計	5,853,219	5,521,912	331,307	6.0

町税等の延滞金の取扱いについて

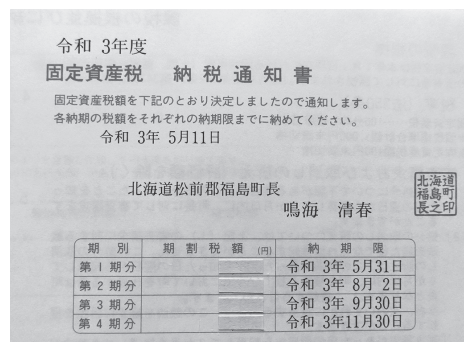
【論点と意見】

公平性を保つため、延滞金を徴収。

町が示した町税（町道民税・固定資産税・軽自動車税）をはじめ、国民健康保険税、介護保険料、後期高齢者医療保険料に対する、令和3年度からの延滞金徴収については、理解しました。

徴収開始まで時間が迫っていることから、町広報・ホームページ等により、町民に、積極的に延滞金徴収を周知してください。

【調査概要】調査事件11 R3・2・2開催
町より地方税法に基づく町税等に係る延滞金を、令和3年度より徴収する内容が示されたので、調査したものです。



今年度の固定資産税納入通知書

延滞金とは？

町税等を納期限までに納付されない場合、納期限までに納付された方との公平性を保つため、納期限の翌日から納めた日までの日数に応じて、法律で定められた割合で計算した加算金のことをいいます。

議会議員・町長の選挙における選挙運動の公営に関する条例の制定について

【論点と意見】

公職選挙法改正⇒次の議会議員・町長選挙から選挙運動経費の一部を公費負担。

町が示した一般乗用旅客自動車運送事業者（タクシー会社）以外の個人から選挙運動用自動車を借入れる場合の契約や、選挙運動用ポスターの作成限度単価・対象限度枚数等を踏まえた公費負担限度額、また、選挙公報活用による選挙用ビラを条例から除くことは、理解しました。



【調査概要】調査事件12 R3・2・2開催
本件は、昨年10月19日に調査し、継続調査としていた案件ですが、見直し後の条例（案）が示されたので、調査したものです。

選挙運動の公費負担は、「議員の成り手不足解消」を大きな要因として公職選挙法が改正されたことから、その内容を町民に積極的に周知してください。

○選挙公報活用による公費負担の節減

選挙用ハガキについては、平成15年の改選期から議会議員立候補者の申合わせにより、選挙公報を活用し作成していませんが、今回の法改正により公費負担の対象となった選挙用ビラについても、選挙公報活用により条例（案）に定義せず、公費負担の軽減を図るべきです。また、さらに進んで、選挙公報充実により町内38か所の掲示場数や投票所数を減少させるなど、公費負担の軽減検討を強く望みます。

福島町森林組合の再建計画進捗状況について

【論点と意見】

独立した団体として、危機感をもって組合経営を。

森林組合の再建計画が5年の計画期間を待たずに、令和2年度をもって繰越欠損金が解消できる見込みとなったことについては、一定の理解をしました。

○今後の方向性

森林組合は、町の総合調整の経緯を再認識すべきであり、「個別の独立した産業団体」として危機意識を持って組合経営されるよう町において指導し、今後とも、内容を把握・検証し、議会に報告してください。



森林組合による町有林間伐の様子

種苗生産等施設整備事業について

【論点と意見】

基本設計に向け、国などと協議をしながら鋭意準備を。

町が示した種苗生産施設集約の概要（鉄骨造平屋建て一部2階建て）・建設地（福島漁港内）については、前回の常任委員会で提言した「陸上アワビ施設との一体的管理・運営、有効活用」の視点からも一定の理解をしました。



配布前の養殖こんぶ種苗系

○施設集約後の現ウニ種苗センター

種苗生産施設は、水産業の振興に必要不可欠な施設であることから、さらに福島・吉岡漁業協同組合と協議・連携を深めるとともに、施設集約後の現ウニ種苗育成センターの有効活用の可能性を探究してください。

今後の介護保険事業の運営等について

【論点と意見】

第8期介護保険料は、基金活用により現状維持を。

町が示した第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（案）の計画内容・介護保険料設定に係る介護給付費準備基金活用などは、理解をしました。

○介護現場における人手不足問題

当町でも、在宅介護の人手不足は深刻な状態にあるため、現役を退いた方々の活用など人材確保やボランティアの積極的な参加等を検討してください。

【調査概要】 調査事件14 R3・1・27開催
令和3年度から令和5年度までの「第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（案）」が、町より示されたので調査したものです。

福島町社会福祉協議会の 財政健全化計画について

→ 社協の訪問入浴車



【調査概要】 調査事件15 R3・2・9開催

令和2年2月18日に本委員会で調査した社会福祉協議会に対する財政支援については、その内容を理解した上で、町助成の在り方、法人自助努力の可能性について、町と慎重に協議した綿密な財政再建計画の作成を求め、継続調査としたところです。

このたび、町より提出された法人の財政再建化計画資料、補助金追加要望書（新型コロナウイルスによる介護保険収入の大幅な減収）に基づき、調査しました。

【論点と意見】

**追加提出の町助成金要望は、慎重な対応を。
現状をしっかりと把握し、綿密な財政再建計画の提示を求める。**

1. 提出資料

今般提出の資料については、社会福祉協議会から提出された資料に基づき作成したとのことですが、説明内容と今年の補助金追加要望書添付資料、昨年2月調査時の収支計画書（安心生活部門）との違い、また、表区分の不統一など、実態把握のための資料としては不十分です。

社会福祉法人としての法人運営事業と、介護事業所としての事業を比較検討できる資料を整理し、議会に提出してください。

2. 包括支援センター業務等

現在、包括支援センター業務は福祉課が担当していますが、今後のセンター運営の一手段として、公共的団体として介護事業も行う社会福祉協議会がセンター業務を行うなど介護保険制度の中でも指導的な役割を担うこと、また、引きこもり若者の高齢化と親の高齢化問題（8050問題）に対応するための改正社会福祉法に柔軟に対応するための組織構築を検討してください。



社会福祉協議会が受託・
管理している福祉センター

3. 総括的意見

今回提出の資料により財政再建計画の概要は一定の理解をしましたが、追加提出の助成金要望については、介護事業利用者減による影響額に限定すべきであり、現在の法人運営の支援主旨を再認識し、慎重な補助対応を望みます。

なお、車両購入に係る固定資産取得積立金や職員の退職手当積立金を取り崩し、財政調整基金として財源不足を補い、その後に町に支援を求めていることが今回の資料で初めて分かりましたが、この状態になるまで町に対して働きかけがなかった協議会と、ここまで経営悪化を見過ぎてきた町の責任は重く、財政逼迫の要因は、公的性格の設立趣旨から、民間と積極的・優位な利用者獲得競争が難しく、政策的な要素で継続すべき事業（介護予防・訪問入浴等）の負担等にあることを踏まえ、今後さらに人口減少・介護利用者減が予測される中での法人運営事業に係る町助成の在り方、法人の自助努力の可能性について、改めて、町と協議会がしっかりと協議し、綿密な財政再建計画を整備した上で、再度、財政再建計画を議会に提示してください。

学童保育の現状について

【論点と意見】

【調査概要】 調査事件16 R3・2・9開催
平成19年度から本格実施している学童保育について、町の関係資料に基づき、調査したものです。

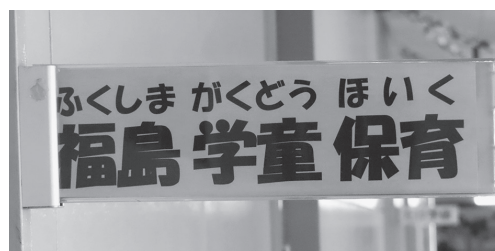
保護者と指導員の良好な意思疎通ができる体制構築を。

学童保育の現状については、一定の理解をしました。

1. 管理体制等

学童保育の1日のスケジュールは、自宅同様の生活様式として、児童の自主性を育てるため自由に学習と遊びをさせているとのことですが、「生活・教育の場」でもあることから、学童保育指導員の適切な指導・安全管理を目的に、集団活動・個別指導の充実、活動計画表（日程表・月年計画）を整備する必要があると考えます。

また、低学年児童と高学年児童の身体的違い等に対する指導員の配慮については、今後とも継続してください。



福島小学校内の学童保育室表示板

2. 保護者との関わり方

児童を迎えに来る保護者は、児童玄関から指導員に電話連絡の上、児童玄関を開錠してもらい、児童の引き渡しを受けることとなっており、保護者と指導員とのコミュニケーションが希薄となり、学童保育に関する情報共有が充分なされていないと懸念されることから、保護者と指導員の良好な意思疎通ができる体制を構築してください。

住生活基本計画策定と 町有住宅整備事業について

【論点と意見】

【調査概要】 調査事件17 R3・2・9開催
町では、令和3年度から若者・子育て世帯を対象に「定住向け町有住宅整備事業」を着工予定であることから、新たな計画策定も含め関係資料に基づき、調査したものです。

住宅利用料は、民間賃貸住宅料を勘案して設定を。

住生活基本計画の策定・町有住宅整備事業は、理解しました。

1. 定住向け住宅整備

この事業は、「若者世帯・子育て世帯・その他世帯」の3つの世帯を対象にした事業で、間取り等、住環境に配慮されたものです。この住宅に入居した子育て世帯等が、将来、持ち家を欲しくなるような先を見据えた政策展開に期待します。

住宅利用料は、民間賃貸住宅料を勘案の上、設定することを望みます。

2. 定住促進住宅

定住促進住宅は、今回の町有住宅とは別ですが、厚沢部町で以前実施した「体験型移住住宅」の仕組みのような、斬新で魅力的な制度検討に期待します。

令和3年度 議会はこのようなことを調査します!!

総務教育常任委員会

※総務課・企画課・町民課（税）・教育委員会に関することを調査

- ① 道立福島商業高等学校の存続対策事業
- ② 第5次総合計画の変更（過疎計画を含む）
- ③ 行政評価（事務事業評価）
- ④ 所管関係施設・事業等の町内視察・執行方針の取り組み
- ⑤ 第2青函トンネル構想の進捗状況
- ⑥ 吉岡小学校の今後の在り方
- ⑦ 文化財施設整備の方向性
- ⑧ 学校給食の地元食材活用
- ⑨ 行政手続きの簡略化（押印廃止・提出不要・電子メール活用等）



経済福祉常任委員会

※町民課（戸籍・年金）・福祉課・産業課・建設課に関することを調査

- ① 国民健康保険事業の現状と今後の運営
- ② 種苗生産等施設整備事業
- ③ 社会福祉協議会の財政健全化計画
- ④ 令和4年度以降の岩部クルーズ運航事業と
両記念館を含めた指定管理者制度の導入
- ⑤ 簡易水道事業における水道料金の見直し
- ⑥ 第5次総合計画の変更（過疎計画を含む）
- ⑦ 行政評価（事務事業評価）
- ⑧ 所管関係施設・事業等の町内視察・執行方針の取り組み
- ⑨ 吉岡温泉整備事業
- ⑩ アワビ陸上養殖事業の進捗状況と今後の見込み
- ⑪ 企業誘致条例見直し
- ⑫ 町立診療所の経営安定化
- ⑬ 地場産業開発研究事業の在り方
- ⑭ 家庭ごみ減量化対策の在り方
- ⑮ 農業振興地域計画の見直し



広報広聴常任委員会

※各常任委員会の関係団体や町民との懇談会

- ① 町内介護事業者との懇談会（経済福祉部会）
- ② 町民と議員との懇談会



常任委員会はすべて公開しており、参画することができます。気になる調査事件がありましたら是非議場へお越しください。

町民と議員との懇談会

～気軽に・和やかに・何でも聞いて！～



「町民と議員との懇談会」は、町民に対する説明責任を果たし、情報を共有するため、全町内会を対象に、議員が3班に分かれ開催しております。

令和2年度は、2月2日から9日までの6日間、町内17会場で実施し、延べ98人の町民が参加しました。

写真：2/2 宮歌・豊浜町内会館

懇談会でいただいた意見の主なもの

●新型コロナウイルスは？

- ・福島町のコロナ対策は、他町に比べて早い。
- ・ワクチン接種を、いつ頃どのようにしてやるかなどを早めに町民へ知らせてほしい。
- ・町内で買い物をしても消毒・マスクをしっかりとっているので安心できる。

●岩部クルーズは？

- ・案内人の、伝説や奇岩の説明に感動した。
- ・食べ物も提供したほうがいいのではないかな。
- ・地域資源を活用して、時化で中止の際に代わる体験型のものであればいいのではないかな。

●除排雪は？

- ・大雪の時に除雪作業車の状況等を防災無線で放送してくれて安心する。
- ・国道の除雪はありがたいが、その雪が玄関前に置かれる。高齢者ばかりなので処理するのが大変。
- ・高齢者の独居世帯が増えているため、流雪溝のシステムを変える必要がある。

●もっと情報をおしえて

- ・がんばる地元企業等応援事業で3年間に4億5千万円も助成しているが、事業の効果や検証した内容について一般町民はわからないので周知してほしい。
- ・第2青函トンネルについて、もっと情報を発信し、PRしてほしい。
- ・岩部クルーズは、船を造る時から町の支援を受けているので、何人乗船したかなどを町広報で知らせてほしい。

懇談会でいただいた意見から一般質問へ (詳細はP 9～10)



小鹿昭義議員

「町の事業実施による町民還元の
成果と検証の周知について」



平沼昌平議員

「令和2年度町民と議員との懇談会を受け
て国道沿いの除排雪の在り方について」

各地区懇談会の様子



2/2 松浦・吉野町内会館



2/3 白符ふれあいセンター



2/4 浜中母と子の家



2/5 月崎母と子の家



2/8 緑町母と子の家



2/9 三岳寿の家



新型コロナウイルス感染症対策として、各会場には消毒用アルコールとマスクを用意して、手の消毒・マスクの着用を徹底したなかで懇談会を開催しました。

今回いただいた意見を議会としてまとめた「実施報告書」を、3月3日に町長・教育長へ手交し内容の説明をしました。また、各町内会長へも報告書を送付し、情報の共有を図りました。

「町民と議員との懇談会」を継続実施して行くことが、議会活動の理解を深める機会にもなり、じかに町民に接することが重要であると思っておりますし、さらに、それぞれの議員活動に活かし、議会活動に連動させ、政策提言へと進展させる実践にも繋がります。

今後とも町民の負託にこたえ活動を展開させ、豊かなまちづくりのための不斷の努力を続けてまいります。

第2青函トンネル実現を目指して！

2月19日(金)、福島町福祉センターで「令和2年度渡島西部四町議会議員連絡協議会議員研修会」が開催され、渡島西部四町の議会議員や町長、関係職員など66名が研修をしました。
当町の参加議員9名の研修成果については、定例会3月会議で報告しております。

講演名 「JAPIC 津軽海峡トンネルプロジェクト」 ～ コロナ禍を超えて、国土発展のために ～

講師 JAPIC 国土・未来プロジェクト研究会 神尾 哲也 氏

○なぜ、第2青函トンネルが必要か？

- ・四国・九州は、明石海峡大橋や瀬戸大橋、関門トンネル等で本州と陸続きになっており、物流や人の流れなどに大きな経済効果を生み出していますが、北海道は津軽海峡で道路が分断されており、農水産物輸送の8割がカーフェリー利用のトラック輸送で、福岡・東京間のトラック輸送と比べると、約5万5千円の輸送経費の増と試算されております。

北海道の豊富な農水産資源を活かすためには、他の生産地との競争力強化策としての輸送経費削減、また、消費拡大の観点からも、物流と人の流れの増加策は急務であることから、第2青函トンネルの必要性が、今後、益々重要な課題となります。



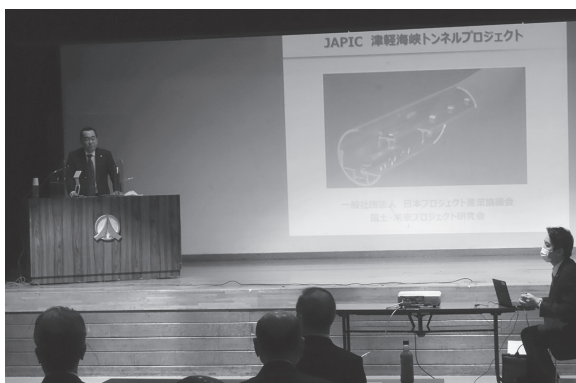
講演に聴き入る四町の議会議員

○第2青函トンネルのプロジェクト概要は？

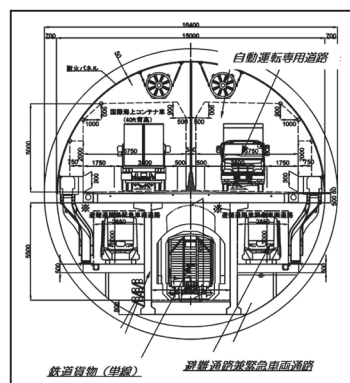
- ・計画の概要 ～ トンネルの計画延長は31km(内径15.0m)で、自動運転車専用道路と鉄道貨物(単線)を併用したトンネルとなっています。
- ・概算事業費 ～ 7,200億円(税抜き)
- ・事業方式 ～ PFI方式 ※民間の資金と経営能力・技術力を活用し、公共施設等の設計・建設・更新・維持管理・運営を行う事業方式。
- ・事業期間 ～ 調査設計・施工・アクセス道整備を含め、事業期間は約15年の見込み

○第2青函トンネルの効果は？

- ・函館・青森間のフェリーと比べ、所要時間50%、大型車の物流コスト46%が削減される。
- ・北海道と青森の物流・消費(観光)の増加は、年878億円の経済効果と試算している。
- ・青函トンネルが新幹線専用となり、本来の高速化が可能となり、利用率が向上する。



講演中の国土・未来プロジェクト研究会 神尾委員



研修会資料「今後推進すべきインフラプロジェクト」から引用

会議等出席状況

会議や議会へ通知があった行事等の2月から5月までの出席状況をお知らせします。

「○」は出席、「×」は欠席、「－」は出席不要・任意、「◎」は委員外議員として出席、「△」は別公務・病欠のため、「職」は正副議長の職務出席を表しています。

年 月 日	会 議 ・ 行 事 名	花田	佐藤	平沼	木村	川村	杉村	藤山	小鹿	平野	溝部
2月2日	総務教育常任委員会（延滞金・公営選挙）	○	－	－	○	○	○	－	－	○	○
	町民と議員との懇談会（町内3会場）	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
3	町民と議員との懇談会（町内3会場）	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
4	町民と議員との懇談会（町内3会場）	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
5	町民と議員との懇談会（町内3会場）	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
8	町民と議員との懇談会（町内2会場）	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
9	経済福祉常任委員会（社協・学童・住宅）	－	○	○	－	－	－	○	○	○	○
	町民と議員との懇談会（町内3会場）	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
	経済福祉常任委員会意見書手交	－	○	－	－	－	－	－	－	○	○
15	総務教育・経済福祉常任委員会意見書手交	－	○	－	－	○	－	－	－	○	○
19	渡島西部四町議会議員連絡協議会総会・研修会	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
22	議会運営委員会（定例会2月会議の運営）	○	○	○	－	○	－	－	△	職	職
	定例会2月会議	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
	議会運営委員会（定例会2月会議の反省事項）	○	○	○	－	○	－	－	△	職	職
24	タブレット導入に係る説明会（デモ）	○	○	○	－	－	○	○	○	○	○
26	正副議長会議（定例会3月会議議案説明）	－	－	－	－	－	－	－	－	○	○
	渡島西部広域事務組合議会第1回定例会	－	○	－	－	－	○	－	－	－	○
27	青少年の主張大会	－	－	－	－	○	－	－	－	－	○
3月1日	一般質問通告	－	－	○	○	○	－	－	○	－	職
	議会運営委員会（定例会3月会議の運営）	○	○	○	－	○	－	－	○	職	職
3	議員勉強会（3月会議）	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
	町民と議員との懇談会報告書手交	－	－	○	－	－	－	－	－	○	○
4	自衛隊入隊激励会	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
8	定例会3月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	〃 夜間議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9	予算審査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	職
10	予算審査特別委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	職
11	定例会3月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議会運営委員会（定例会3月会議の反省事項）	○	○	○	－	○	－	－	○	職	職
16	会計年度任用職員面接	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
19	福島幼稚園保育証書授与式	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○

年 月 日	会 議 ・ 行 事 名	花 田	佐 藤	平 沼	木 村	川 村	杉 村	藤 山	小 鹿	平 野	溝 部
3月25日	認定こども園福島保育所卒園式	—	—	—	○	—	—	—	—	—	○
29	議会運営委員会（定例会3月第2回会議の運営）	○	○	○	—	○	—	—	○	職	職
	定例会3月第2回会議	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○
	議会運営委員会 （定例会3月第2回会議の反省事項）	○	○	○	—	○	—	—	○	職	職
31	福島吉岡漁業協同組合通常総会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
4月1日	辞令交付	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
2	事務局長新任挨拶（議長会・北斗・木古内他）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
5	認定こども園福島保育所入園式	—	—	—	○	—	—	—	—	—	○
12	福島幼稚園入園式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
	2022年度地方財政確立にむけた要請	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
15	特定水産動植物等の国内流通の適正化等に関する法律 に関する説明会・意見交換会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
20	タブレット導入に係る説明会（デモ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議会運営委員会（議会評価）	○	○	○	—	○	—	—	○	職	職
26	渡島西部四町議会議員連絡協議会理事会	×	—	○	—	—	—	—	—	○	○
28	渡島西部広域事務組合議会第1回臨時会	—	○	—	—	—	○	—	—	—	○
30	正副議長・委員長会議	—	○	○	—	×	—	—	—	○	○
	令和3年度常任委員会所管調査予定手交	—	○	○	—	×	—	—	—	○	○
5月10日	議会基本条例諮問会議	—	—	○	—	—	—	—	—	○	○
11	渡島総合開発期成会役員会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
18	総務教育常任委員会 （福島商業高校・意見書の採択・定例会6月会議後の 所管事務調査）	○	◎	—	○	○	○	◎	—	○	○
24	議会運営委員会 （議会だより編集、タブレット）	×	○	○	—	○	—	—	○	職	職
	総務教育常任委員会意見書手交	—	—	—	—	○	—	—	—	○	○
28	議会運営委員会（定例会5月会議の運営）	○	○	○	—	○	—	—	○	職	職
	定例会5月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	議会運営委員会（定例会5月会議の反省事項）	○	○	○	—	○	—	—	○	職	職
	経済福祉常任委員会 （国民健康保険、種苗生産施設、定例会6月会議後の 所管事務調査）	—	○	○	◎	—	—	○	○	○	○



4/20 タブレット導入に係る説明会

◆ 議会の評価 ◆

【令和2年度（1年間）の活動結果】

「議会活動評価要綱」に基づき、議会活動を主要10項目と具体的な37項目に区分し議員・議会の活動状況の基礎資料と、全国・全道の町村議会の実態や先進的な運営をしている議会などと比較検討し、議会運営委員会（4月20日決定）が評価し、諮問会議で内容を検討して町民に公表するものです。

昨年と比べ悪化した項目等はありませんが、引き続き「町民が実感できる政策を提言する議会」を目指し、評価結果・諮問会議の意見を参考にしながら新たな課題を設定し、豊かな町づくりを目指して不断の努力を続けてまいります。

【評価の分類：○＝「概ね一定の水準にある」 △＝「一部水準に達していない」 ▲＝「取組が必要」】

主 要 評 価 項 目	具体的な項目	過去3年間の評価			R 2 評価	摘 要
		H29	H30	R元		
1. 議会の 活性化	①一般質問	△	○	△	△	R2年度に一般質問を行った議員の延べ人数・項目は前年度と同数であり、1定例会平均質問者数3.8人（37.5%）（全国6.3人（52.9%）、全道4.7人（38.1%）、渡島管内4.7人（38.1%））となっている。より積極的な一般質問への取組みが必要である。
	②一般質問答弁事項等 追跡調査	○	○	○	○	本会議、予算・決算審査特別委員会での一般質問等に対する町長、副町長、教育長の答弁内容に一定の指定事項を設け、追跡調査を行っている。 （追跡調査件数 H30＝2件、R元＝0件、R2＝1件）
	③質疑・意見交換	○	○	○	○	本会議、予算・決算審査特別委員会での審議も活発に行っている。引き続き質疑内容を充実する。 （平均質疑者・回数：定例3.5人 8.2回、定例外1.6人 3.6回、委員会2.9人 13.6回） （平均意見交換者・回数：定例3.0人 9.0回、定例外1.0人 1.7回、委員会2.9人 11.3回）
	④討議・討論 （本会議）	△	△	△	△	常任委員会所管調査、事前勉強会等の実施により本会議での討議・討論は少ないものとなっているが、引き続き「議員間討議要綱」に基づき、論点・争点を明らかにした討議・討論への取組みが必要である。（R元＝0件、R2＝0件）
	⑤討議（委員会）	○	○	○	○	各種委員会において質疑・意見交換で出された内容を論点整理した項目に沿って活発な議員間討議を行っている。 （R2開催日数：常任委員会＝19日、特別委員会＝6日）
	⑥議員提案	○	○	○	○	一般質問項目、「町民と議員懇談会」意見を常任委員会で検討しているが、所管調査として取組む事案はなかった。所管事務調査結果を行政側に手交することで議会の考えが政策等に反映されている。条例提案による政策反映に至る案件はなかった。
	⑦文書質問	△	△	△	△	質問が特定の議員に偏っている。政策提案等に向けた文書質問への取組みが必要である。 （H30＝実2人、8項目 R元＝実1人、5項目 R2＝実1人、4項目）
2. 議会の 公開度	①委員会の公開	○	○	○	○	本年度は100％公開し、委員会もライブ中継・録画配信を行っている。
	②審議記録の公開	○	○	○	○	ホームページで全て公開している。
	③審議前の会議資料の公開	○	○	○	○	基本的に全て公開している。（議場・ホームページ）
	④議会経費の公開	○	○	○	○	決算内容を含め、交際費・政務活動費などの詳細も全て議会だより・HPで公開している。
	⑤視察報告の公開	○	○	○	○	本会議・ホームページで公開している。
	⑥全員協議会の公開	○	○	○	○	ライブ中継・録画配信を行っている。
	⑦会議公開の充実 （ライブ中継）	○	○	○	○	適宜、配信機器の更新を実施し、鮮明な映像配信を行っている。町民からの要望に応え、スマートフォンでの視聴も可能（R元からライブも視聴可能）となった。 全道＝77議会（議会中継実施）
3. 議会の 報告度	①議会だより・速報版等の 発行	○	○	○	○	議論状況や内容をより分かりやすくまとめ、質疑等の掲載も充実させた。H28.6月発行分からは文字サイズを拡大している。 全道＝単独発行124議会
	②議会ホームページの運用	○	○	○	○	H28年3月より議会ホームページをリニューアルした。引き続き、迅速な公開に努める。 全道HP＝131議会
4. 住 民 参加度	①各種団体との懇談会の開 催 （常任委員会の活動）	△	△	△	△	テーマと開催方法（住民主催等）を工夫した取組みが必要である。R2年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い懇談会の開催を中止している。 （懇談会：H30＝2回、R元＝1回、R2＝0回）

※「討論」とは、議会の本会議において、表決の前に、議題となっている案件に対し、賛成か反対の議員個々の意思を表明すること。

主 要 評 価 項 目	具体的な項目	過去3年間の評価			R 2 評価	摘 要
		H29	H30	R元		
4. 住 民 参加度	②町民と議員との懇談会の開催	○	○	○	○	R 2も議員を3班に分け町内会単位で実施した。引き続き懇談内容の充実への取組みが必要である。 (R元＝6日間・17会場101人、R 2＝6日間・17会場98人) 全道＝61議会
	③参画者への対応と参加度	○	○	△	△	参画者にも同様の資料を用意している。討議への参画が課題である。 (R元＝定例10人、平均2.5人 定例外7人、平均1.8人) (R 2＝定例9人、平均2.3人 定例外9人、平均1.3人) (全道平均＝定例4.7人、定例外1.3人)
	④休日・夜間議会の開催	○	○	○	○	H19から夜間議会(定例)を開催している。 (参画者R元＝4人、R 2＝3人) 全道＝夜間7議会、休日5議会
5. 議会 の民主度	①一般質問の一問一答方式	○	○	○	○	一問一答方式を実施している(H12)。質問回数と時間制限の規定を廃止している(H20)。 全道＝117議会(一問一答方式採用)
	②説明員との対面方式	○	○	○	○	庁舎建設時から実施している(H6)。 全道＝130議会
	③一般質問の答弁書配付	○	○	○	○	実施済み(H13.9)。質問に関する的確な(漏れや補足答弁を必要としない)通告書、答弁書となるよう改善に努めている。
6. 議会 の監視度	①長との適正な関係の維持	○	○	○	○	福島町議会議員の不当要求行為等を防止する条例を制定(H20)、前記条例の内容を拡充した福島町議会議員政治倫理条例を制定(H30)、町長との適正な緊張関係を維持している。
	②全員協議会の適切な運用	○	○	○	○	事前協議となるような執行者からの要請による開催はしない。
	③議会権能(けん制・批判・監視等)の適切な遂行	○	○	○	○	定例会毎に議会運営等に係る反省点を洗い出し行政側に文書を手交し説明している。又、常任委員会を取りまとめた調査意見(報告書)を行政側に手交し説明、意見交換することで委員会の意向が政策に反映されている。
7. 議会 の専門度	①所管事務調査の充実強化	○	○	○	○	常任委員会の所管事務調査は論点・争点を整理し委員間で討議し意見をまとめている。委員会の意見が政策に反映されるよう、調査意見(報告書)を行政側に手交し説明、意見交換している。[R 2調査件数29件]
	②政策立案・審議能力の向上強化	○	○	○	○	各常任委員会所管事務調査において、条例の制定・改正、事業計画等の案件について、議会として町民の利益になるような修正意見を提言している。 ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金対象事業 ・学校給食における地元食材活用 ・岩部クルーズ運航事業 ・福島町議会議員、福島町長選挙における選挙運動費用の公営負担 ・種苗生産施設等整備事業 ・アワビ陸上養殖事業の進捗状況と今後の見込み 等
	③議決権範囲の拡大	○	○	○	○	町の主要計画を議決対象としたことで、各計画が広く認識され内容の充実に繋がっている。継続的に見直しを行っており現在の議決事件は13件となっている。(令和2年度は新たに追加・削除した議決事件はなし)
8. 事務局 の充実度	①議場・委員会室の整備充実	○	○	○	○	議場映像設備(R元)、議場等音響設備(H28)の更新を行うなど、設備の適正管理により映像配信等の精度向上が図られている。
	②事務局の充実強化	○	○	○	○	情報公開の迅速化、充実した情報・資料収集、法務能力の向上などに取り組んでいる。体制は正職員3人、会計年度任用職員1人で充実している。
9. 適正な 議会機能	①法規定以外の執行部付属機関への委員就任廃止	○	○	○	○	法定となっている都市計画審議会のみ就任している。
	②適正な議会経費	○	○	○	○	諮問会議の答申を踏まえ、適正な議会活動費の基準となる標準額を決定、平成30年度に見直している。 (当初標準額＝3,184千円・H30見直し標準額＝4,355千円、R 2 予算4,782千円)
	③議会の自主性強化	○	○	○	○	「議会基本条例見直し検討による行動計画」に基づき課題に取り組んでいる。平成21年度より年度を期間とした「通年議会」を実施している。議会基本条例等の検証と実績の反映を期し、平成30年度に全体的にわかりやすく改正、新たに2条例・7要綱を制定(議会参画条例・政治倫理条例等)
	④議会付属機関の設置	○	○	○	○	福島町議会基本条例諮問会議を設置し毎年度数項目を諮問し、それぞれ答申を受け議会活動に反映している。
	⑤系統議長会の体制整備	○	○	○	○	道議長会に対し、町村議会が利用しやすいホームページへの見直しを要望している。(資料提供、道内の町村議会へのリンク等)
10. 研修活動 の充実強化	①研修の効率的な取組み	○	○	△	△	本会議等の事前勉強会を実施し議案等の要点や問題点を確認している。議員研修会の報告会を開催し情報共有を図っている。R 2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う往来自粛もあり、政務活動費を活用した共同視察研修は実施できなかった。

^{しもん} 議会評価に対する諮問会議意見

◎議会運営委員会による議会評価は適切である。
意見～町民の声を町政に届ける手段、また、町政の方向性を確認する手段として、一般質問と文書質問を積極的に活用した議員活動を望みます。

評価概要

「議員活動の自己評価」

令和2年度分（令和2年4月～令和3年3月）

平成17年分の議会活動から始めた議員の自己評価は、今回で16回目となります。右表の5主要指針について具体的に取組んだ事項を3段階で自己評価したものです。

集計の結果、「取組の評価」については、項目全体の166項目中、「○ほぼ満足」は63件で38%、「△努力が必要」は94件で57%、「▲さらに努力が必要」は9件で5%となりました。

次に、「成果の評価」については、項目全体の166項目中、「○ほぼ満足」は38件で23%、「△努力が必要」は81件で49%、「▲さらに努力が必要」は47件で28%となりました。

取組の評価では「○ほぼ満足」が38%であるが、成果の評価では23%と大きく差があります。このことから、今後も各議員の取り組みが今まで以上に成果として反映されるように努力する必要があります。

また、議員個人としての活動について、2名の議員から報告がありました。

□ 自己評価は次の指針により実施しています。

主要指針	評価の指針等
1. 態度評価	町民の立場で発言・行動をしているか。議会での態度（居眠り、私語など）、審議の態度（品位の保持、審議への協力）
2. 監視評価	一般質問、討論、質疑・意見交換・討議（発言）などで行政執行をチェックしたか。
3. 政策提言評価	町民の意向を政策に反映させるため、行政への一般質問、討論、質疑・意見交換・討議（発言）などで政策提言をしたか。
4. 政策実現評価	一般質問、討論、質疑・意見交換・討議（発言）などで指摘した事項が改善されたか。政策提言した事項が実現したか。
5. 自治活動・議会改革取組み評価	議会報告をしているか。地域活動へ参加しているか。町づくりなどへの貢献度どうか。町民ニーズの把握はどうか。

○議員別の評価集計

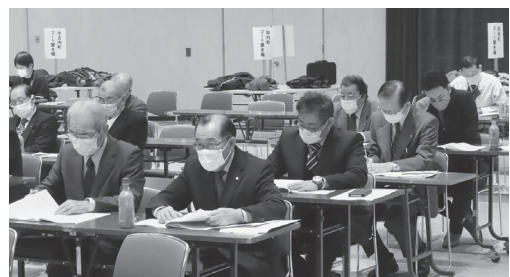
議 員 名	花田 勇		佐藤 孝男		平沼 昌平		木村 隆		川村 明雄	
項 目	取組	結果	取組	結果	取組	結果	取組	結果	取組	結果
○ ほぼ満足	7	3	11	10	6	1	7	6	5	2
△ 努力が必要	2	4	1	3	8	11	6	6	16	13
▲ さらに努力が必要	0	2	2	1	2	4	0	1	1	7
計	9	9	14	14	16	16	13	13	22	22

議 員 名	杉村 志朗		藤山 大		小鹿 昭義		平野 隆雄		溝部 幸基		合 計	
項 目	取組	結果	取組	結果	取組	結果	取組	結果	取組	結果	取組	結果
○ ほぼ満足	2	0	14	9	6	1	4	0	1	2	63	38
△ 努力が必要	6	5	4	9	7	6	13	13	31	13	94	81
▲ さらに努力が必要	1	4	0	0	0	6	1	5	2	19	9	47
計	9	9	18	18	13	13	18	18	34	34	166	166

〔分野別の評価種類は、次のとおり省略しています。〕「取組」＝取組の評価 「成果」＝成果の評価

○議員個人としての活動

	花田 勇	溝部 幸基
報告会等の実施	1	1
議員だよりの発行	—	—
個人ホームページの開設	—	○
その他	—	—



●議員活動の目標（公約）

選挙公報による公約とともに、適正な議会・議員の役割を果たすために、前年の自己評価による反省点や課題などを翌年の議会・議員活動の目標（公約）として、平成19年から公表しています。

本年度は、10名の議員で総数172項目（昨年度：10名提出 166項目）となりました。

【個人票はP32～P35に掲載しています。】

「議員」の評価結果（個人票）

評価の分類：○＝「ほぼ満足」 △＝「努力が必要」 ▲＝「さらに努力が必要」

評価期間：令和2年4月～令和3年3月

花田 勇 80歳

総務教育常任副委員長、
議会運営副委員長、議会選出監査委員
議員歴10年



分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
行政	若者が定住できる雇用の場の創出	△	△
	第2青函トンネル実現に向けた提言	○	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
財政	第5次総合計画後期計画4年間について財政健全化を考えながらの推進を提言	○	○
経済	養殖事業（昆布・アワビ等）のブランド化の推進を提言	○	○
	観光（青の洞窟）の充実を提言	○	○
福祉	ガン検診の受診を町民にさらにアピール	○	△
	高齢者の通院バスの確立について提言	○	▲
教育	少子化による小中一貫の教育に向けた提言	△	▲
その他	道の駅や温泉施設の改修か新築かについての提言	○	△

佐藤 孝男 74歳

経済福祉常任委員長、議会運営委員、
渡島西部広域事務組合議会議員
議員歴26年



分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
行政	チャレンジスピリット応援制度の有効利用と強化	○	△
	大型公共施設の整備と改修を提言（福祉センター、吉岡温泉ゆとらぎ館）	○	○
財政	財政健全化の推進（基金有効活用）	○	○
	総合計画の推進とチェック強化	○	○

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
経済	一次産業の振興と新規就業者の育成	○	○
	ほだ木確保のため町有林の調査、作業路の整備推進	○	▲
福祉	デマンドバス利用料金見直し、利用促進	△	○
	予防医療の推進	○	○
教育	学校給食での地場産作物利用強化	○	○
	福島商業高等学校存続強化、募集の見直し	▲	○
その他	食育の取り組み、体験学習の実施	▲	△
	第2青函トンネル構想に向けての推進	○	△
	各産業団体との懇談会の実施。現場へ出向いて生の声を聞き、議会活動に役立てる	○	○
	各種行事の積極的な参加	○	○

平 沼 昌 平 65歳

議会運営委員長、経済福祉常任委員、
渡島廃棄物処理広域連合議会議員
議員歴16年



分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
行政	職員の効率的作業体制と町民との意思疎通に対する提言	○	△
	雇用の場の創出と定住対策について	△	▲
	わかりやすい資料の作成とIT化による資料の作成に対し提言	△	△
財政	効率的な事務事業の提言と検証から経費節減の提言	△	△
経済	昆布養殖事業に対しての将来的作業体制の在り方と方向性の提言	△	▲
	水産加工業の新たな商品開発と機械化そして雇用の確保の提言	▲	▲
	農林水の一次産業の基盤整備と将来的方向性に対する提言	▲	▲

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
経済	観光業の多面的（場所・食・歴史、等）な活路の提言	△	△
福祉	高齢化に向けての自助、共助、公助に対しての提言	○	○
	健康な街づくりに向けた医療機関の充実と感染予防に対する危機管理と災害対応に向けた取り組みについての提言	○	△
教育	子育て環境の充実と保護者に対する充実したサポートの提言	△	△
	社会教育的観点から郷土の再認識と町民意識の向上の提言	○	△
	IT教育環境の整備と体制づくり・活用の充実に 対する提言	△	△
その他	人口減対策としての2025、2040年に向けて（※）の対応と危機管理を持ってまずは現状の認識と今後の方策に取り組む姿勢づくりの提言	○	△
	第2青函トンネルの情報を当町主体で全国に発信する	○	△
	前浜漁業環境の整備と漁獲向上に対しての提言	△	△

木村 隆 41歳

総務教育常任委員
議員歴14年

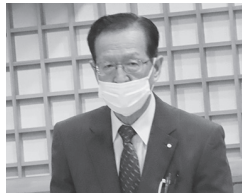


分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
行政	新型コロナウイルス感染予防対策	○	○
	道の駅、答申に伴う方向性	△	▲
財政	新型コロナウイルス対策に伴う財政出動	○	○
	新型コロナウイルス終息後の景気対策	△	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
経済	コンプ作業の効率を上げる情報収集	△	△
	スルメ原料輸入等の確保政策	△	△
	改良住宅建て替え計画の注視	○	○
福祉	介護従事者の作業効率を上げる仕組み作り	○	△
教育	新型コロナウイルス終息後の学校教育	△	△
	高校存続の在り方	○	○
	英語・プログラミング等2020教育（※）の推進	○	○
その他	第2青函トンネル構想の推進	○	○
	若い人を町に戻す取り組み、政策	△	△

川村 明雄 75歳

総務教育常任委員長、議会運営委員
議員歴13年



分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
行政	第2青函トンネル構想の推進強化	△	△
	松前半島道路の計画推進と世論喚起	△	▲
	まちづくり視点からの空き家対策の推進	△	△
財政	費用対効果からの視点探求	△	△
	町内経済活性化視点からの調査探求	△	△
	各基金の有効活用視点の探求	△	▲
経済	新型コロナウイルス対策と町内経済の維持促進	△	△
	地場産品のブランド化への挑戦視点の提言	△	△
	農業、林産業への視点強化対策	△	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
福祉	高齢者等への交通維持対策の考察	○	△
	道内でも超高齢化の現状にある視点からの福祉対策	△	△
	福祉関係に精通する人材育成強化施策	△	△
教育	福島商業高等学校存続の構想等抜本的対策の推進	○	△
	学校教員の働き方改革への考察提言	△	▲
	読み（英語）書き（書道）算盤（ソロバン）視点の理解	△	▲
その他	町民要望に対する考察、実現	○	○
	ボランティア・文化活動の推進	○	○
	岩部地区の観光視点からの考察提言	○	△
	当町定住対策歓迎体制の町民理解の醸成強化	△	△
	児童生徒を持つ外国人世帯の受け入れ態勢の考察	▲	▲
	水道条例見直し提言	△	▲
	墓地公園管理関係への提言	△	▲

杉村 志朗 72歳

総務教育常任委員、
渡島西部広域事務組合議会議員
議員歴22年



分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
行政	第2青函トンネル構想推進	△	△
	道の駅の早期方向性	▲	▲

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
財政	一次産業の経営安定化	○	△
	安心できる財政健全化の推進	○	△
経済	陸上養殖（アワビ）安定化の推進	△	△
福祉	過疎対策・人口減少問題・高齢者の安心居住問題	△	▲
教育	福島商業高等学校存続体制の推進	△	△
その他	他町に誇れる花等の美化運動	△	▲
	クルーズ船に対応した岩部地区公衆トイレ設置の実現	△	▲

藤山 大 46歳

経済福祉常任副委員長
議員歴8年



分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
行政	第2青函トンネル構想推進	○	△
	若者の定住・少子化対策と高齢者にやさしい町づくりの政策提言	△	△
	危険と思われる町道整備と防災のスピーディーな対策の推進	△	△
財政	優先順位を持った財政運営の推進	○	○
経済	一次産業のさらなる発展への提言	○	△
	漁業者へのやさしい対応と漁獲量につながる新たな提言	○	○
	農業者へのやさしい対応と後継者育成	○	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
経済	新型コロナウイルス感染症対策（人的支援・町内経済支援）	○	○
福祉	町民が安心安全な町づくりとサポート体制	△	△
教育	福島商業高等学校存続対策と商業高校を活かした新たなクラブ活動のあり方	○	○
	文化・伝統を後世に残すための取り組み（四ヶ散米行列、奴行列、荒馬、七福神等）	○	○
その他	今後の「道の駅」のあり方（新設なら温泉・福祉センターを含めた新たな「道の駅」構想）	○	△
	各種行事への積極的な参加	○	○
	各種団体と協力し、経済効果が期待できるイベント集客力を目指すための提言	○	○
	松前半島高規格道路整備の推進	△	△
	観光客を増やすためのPR（岩部クルーズ・両記念館等）	○	○
	自分から「できる事」一歩宣言 インターネットを使つての報告（YouTube、Twitter）	○	△

小鹿 昭 義 68歳

経済福祉常任委員、議会運営委員
議員歴1年

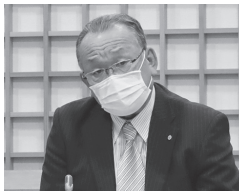


分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
行政	一人ひとりが輝く、みんなが主人公のまちづくりへの提言	○	▲
	新しい風を吹き込み、安全安心で町民と共に、未来に向かうまちづくりへの提言	△	△
財政	財政歳入歳出の更なる透明化の向上を図り、健全な町運営を推進	○	△
	経費全体についての見直しを行い、予算編成の見直しを提言	△	▲
経済	農業、漁業、水産、林業、商工業、観光などの地域産業の振興の推進	○	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
経済	自然、文化、歴史など、まちの特性を活かした広域観光の事業の推進	△	△
	新卒者や求職者のための雇用の場を確保するため企業誘致の推進を提言	○	▲
福祉	お年寄りや身体の不自由な方の要望に応じていく仕組みの確立化を推進	△	△
	健康で働く意欲の旺盛な高齢者のためにシルバー人材センター開設を提言	○	▲
	子どもたちの社会教育の充実を目的に、お年寄りとの交流機会を推進	△	▲
教育	低学年向けにネイティブでやさしい英会話教育の場を提言	△	▲
	家庭、学校、社会が連携した町民主体の文化、スポーツ活動を支援し、自ら学ぶ意欲と個性を伸ばしていく教育を推進	△	△
その他	町民の目線に立ち、町議、町職員と共に、話し合い、「町民のためになるのか。ならないのか。」を見極め、課題に取り組む	○	○

平野 隆 雄 72歳

副議長、広報・広聴常任委員長、総務教育・経済福祉常任委員、渡島廃棄物処理広域連合議会議員
議員歴25年



分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
行政	第2青函トンネル構想推進	○	▲
	町内景気の活性化推進	△	△
	福島川改修事業の早期実現	○	△
財政	財政調整基金の活用	△	△
	町立診療所運営の健全経営実現	△	△
	各町内会館の再編推進	△	△
経済	養殖コンブ製品増の推進	△	△

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
経済	蝦夷アワビ（養殖）の新たな商品開発推進	△	▲
	スルメ加工以外の商品開発推進	▲	▲
福祉	超高齢化と超人口減少に対する町づくりの提言	△	△
	吉岡温泉ゆとらぎ館の利用増提言	△	△
	がん検診の検診率向上推進	△	△
教育	少子化の中の教育行政推進	△	△
	学芸員配置で縄文土器等による町づくり	△	▲
	福島商業高等学校入学増の推進	△	△
その他	学校等における相撲人口増で横綱の里推進	○	△
	岩部海岸クルーズ中心の交流人口の活性化推進	○	△
	伊能忠敬公園の観光客増に向けたPR推進	△	▲

溝部 幸基 73歳

議長、総務教育・経済福祉常任委員、
渡島西部広域事務組合議会議長
議員歴40年



分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
行政	「両基本条例」の目的達成に向けた活動推進 (各種計画に関する提言・検証)	△	△
	自律、協働の「小規模多機能自治（※1）」に関する調査研修	△	▲
	「公契約条例（※2）」に関する調査研修	△	▲
	行政サービスの効率的な運営への提言 (外部委託・時間差出勤・研修等)	△	▲
	防災対策の提言 (災害弱者・訓練・冬季対策等:危機管理に関する研修)	△	△
	「平和の町宣言」に関する調査研修	△	△
	浄化槽（下水道整備）の普及推進	△	▲
	選挙運動費用公費負担制度（※3）の検証	○	○
財政	財政健全化への取り組み (予算・決算審査・行政評価充実:基金の有効活用)	△	△
	特別職退職手当制度の抜本的改善	▲	▲
	地方自治法改正による監査制度の検証 (議選監査委員・議会監査の在り方)	▲	▲
経済	新しい仕事の創出（起業）に挑戦できる支援システムの創設	△	▲
	異業種連携による「福島ブランド」の開発 (ブランド化システムの再検討)	△	▲
	地場産品の6次産業化に関する調査研修	△	▲
	産業団体と課題に取り組む産業公社的仕組みづくり の調査研修	△	▲

分野	具 体 的 な 項 目	評 価	
		取組	成果
経済	地産地消、食育、環境リサイクルで「自律循環型の町づくり」の研修	△	▲
福祉	過疎自治体における超高齢化対策に関する調査研修	△	▲
	「健康な町づくり」(全町的な取り組み)で医療費の節減	△	▲
	予防医療の推進	△	▲
	在宅介護支援体制の整備	△	▲
	簡易水道料金の見直し(用途別基本水量・水道料金)	△	△
教育	小中学校一貫教育、コミュニティースクールに関する調査研修	△	▲
	過疎自治体における高等教育推進に関する調査	△	▲
	「子育て基本条例」制定に向けた取組み(情報収集)	△	▲
	「自分（達）ですべき事は自分（達）でする」主体性をもった自治活動の推進	△	▲
	食育・地産地消の推進 (「食育基本計画」→情報周知・実践計画・研修)	△	△
	わかりやすく、町民が参画できる議会の実現 (議会基本条例の周知)	△	△
その他	活発な討議（討論）ができる議会の実現	△	△
	政策的な提案のできる議会の実現	△	△
	町議会議員選挙への供託金制度導入（※4）	△	○
	幅広い情報収集、積極的な研修参加	△	△
	視察の積極的な受け入れ（七飯町議会、取材：山形県さくらんぼTV・北海道新聞）	△	△
	ホームページの充実 (提案・情報発信・参加型)	△	△
	各種行事、研修への積極的な参加（全国市町村国際文化研究所出講：住民参加・情報公開を進める取組み：滋賀県大津市）	△	△

これってどういう意味？

P 28 平沼議員 ※「2025・2040問題」

2025年に団塊の世代が後期高齢者（75歳）になり、2040年には65歳以上の人口がピークを迎え、人口減少も進んでいく。
(福島町人口ビジョンによる2040年の推計人口は1,741人)

P 29 木村議員 ※「2020年教育改革」

新学習指導要領が導入され、小学校でプログラミング教育の必修化、5・6年生の「外国語教科」が新設され、生徒が主体的に対話しコミュニケーションをとる授業方式（アクティブラーニング）も取り入れられる。

大学入試センター試験の記述式変更など学校教育が大きく変わる。

P 31 溝部議長 ※1「小規模多機能自治」

小さい区域で住民や地域の団体が集まって、地域課題を解決し、地域を運営していく仕組みのこと。

P 31 溝部議長 ※2「公契約条例」

町が民間企業と契約を結ぶにあたり、各企業間での競争による価格の低下に伴う労働条件の悪化を防ぐために定める条例。

P 31 溝部議長 ※3「選挙運動費用公費負担制度」

立候補しようとする人の金銭的な負担を減らし、資産の多少に関わらず立候補や選挙運動の機会を均等に持てるようにする制度。

P 31 溝部議長 ※4「議会議員選挙への供託金制度」

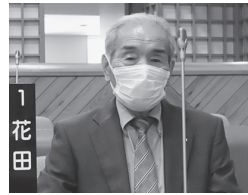
選挙に立候補する際に、法務局等へ決められた金額または金額相当の国債証書を支払う。当選もしくは決められた得票数以上であれば返還され、達していない場合は没収される。

現在の公職選挙法では、町長選挙には50万円とされているが、町村議会議員選挙でも公職選挙法が改正され、次回から15万円供託することとなりました。

議員活動の目標（公約）（個人票）

目標期間：令和3年4月～令和4年3月

〔花田 勇〕



分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	町民に対する行政サービスの質の向上
	防災における危機管理の充実
	災害弱者に対する福祉の提言

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
財 政	第5次総合計画後期計画4年間は大きな財源が必要になる。このため健全な財政運営を提言
経 済	養殖事業（昆布・陸上養殖アワビ）等の更なる生産増について努力
福 祉	高齢化が進む福島町において高齢者医療の充実に努力 町民のガン検診受診者の増に努力
教 育	福島商業高等学校の道内外からの生徒募集には何が必要なのかを提言 少子化が進む中で、小中一貫校を提言
その他	「福島町を観光の街に」が、町を活性化する道と考える 一般社団法人福島町まちづくり工房の岩部クルーズを中心に、各記念館や養殖アワビ等の食を合わせた集客に努力

〔佐藤 孝男〕



分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	若者定住対策と雇用対策
	大型公共施設の整備と改修の提言
財 政	財政健全化の推進（基金の有効利用）
	各種事業の検証
経 済	陸上養殖アワビ販売と商品開発の推進
	一次産業の振興と新規就業者の育成

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
経 済	ほだ木確保のため町有林調査、作業路の整備
福 祉	社会福祉協議会の健全運営の調査と提言
	予防医療の推進
	吉岡温泉早期新築の提言
教 育	給食センターでの地場作物の利用強化
	福島商業高等学校存続対策の推進
その他	第2青函トンネル構想に向けての推進
	松前半島高規格道路整備の推進 各種行事の積極的参加

〔平沼 昌平〕



分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	雇用の場の創出と定住、多拠点としての移住促進の提言
	IT化による行政資料の簡略化と町内外での活用についての提言
	将来的雇用人口減による外国人研修生受け入れの体制整備の提言
財 政	効率的な事務事業の提言と検証。それらに伴う、更なる提言
	歳入歳出予算の算出根拠に対する検証と確認等に伴う提言
経 済	新たな養殖事業の模索と高齢化を視野に入れた前浜漁業の模索提言

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
経 済	農林水産業の少量高価値製品の1次から6次化産業の模索と町内雇用の創出に対する提言
	商工・観光の両面による町内経済活性化の提言と地場製品の開発に対する提言
福 祉	人口減少から来る自助・共助・公助の在り方と行政事業に対する再確認。また、将来的な高齢者福祉事業の進め方について提言
	ウイルス、地震、異常気象による洪水等の災害に対する危機管理から来る対応について提言
教 育	小学校統廃合に対する環境整備と小学校教育環境の充実に提言
	小中高一貫校的環境整備と充実したIT化。国際力のある環境の提言
	子育て環境に対する共助環境の充実と公助の在り方等検証と提言
その他	定例会前の勉強会の充実と議会活動の広域化
	第2青函トンネル実現に向けた活動と町内外に向けた情報発信活動 松前・福島間の新たな広域道路建設の提言

〔 木 村 隆 〕



分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	産学官の新たな展開、調査
	地域起こし協力隊の新たな可能性
財 政	コロナ感染予防、景気対策等財政出動
	ふるさと納税向上の取り組み
経 済	子育て住宅などの注視

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
経 済	新種苗センター等育てる漁業政策
	コロナの影響による外国人実習生の情報収集
福 祉	コロナワクチン対策
	保育士等子育て人材の確保
	吉岡温泉建替えの注視
教 育	高校魅力向上政策
	プログラミング講座の注視
	中学校教科書改訂の対策（英語、A L T）
その他	第2青函トンネル構想推進

〔 川 村 明 雄 〕



分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	松前半島道路計画推進
	第2青函トンネル構想の推進
	道の駅構想への考察提言
財 政	各基金の有効活用
	町内経済活性化対策
	コロナ禍にあり「入るを量りて出づるを為す」(※) 視点注視
経 済	各種産業の維持発展施行

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
経 済	林産業の開発促進
	地場産品の開発、ブランド化対策
福 祉	高度福祉対策への人材育成
	高齢者の定住維持対策
	超高齢化へのあるべき福祉対策の考察
教 育	福島商業高等学校の存続維持対策
	教員の働き方対策
	小中高一貫教育の魅力ある学習の考察
その他	町民要望に対する即時対応
	若者・外国人世帯の受け入れ対策
	若年層の文化活動の推進
	本公約の他これまで掲げた公約の点検、実現考察
	観光視点でのまちづくりへの町民理解と意識醸成
	中古住宅利活用対策の考察

〔 杉 村 志 朗 〕



分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	新型コロナウイルス感染症対策徹底の実現
	異常な積雪による高齢者への配慮の対応
財 政	町立診療所運営の健全化体制の確立

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
財 政	町民が安心できる財政の健全化の取り組み
経 済	種苗生産施設整備基本構想の推進
	滞在型の体験観光旅行（岩部クルーズと提携）
福 祉	高齢化と人口減少問題の支援
	思いやりのある高齢者への福祉対策
教 育	福島商業高等学校入学者に対する継続的、安心な運営
	小中学生のスポーツ活動の支援
その他	空家住宅の計画的減少対策
	他町に誇れる花・花壇の美化対応
	運転免許証返納者への対応

〔 藤 山 大 〕



分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	第2青函トンネル構想推進
	若者の定住・少子化対策と高齢者にやさしい町づくりの政策提言
	危険と思われる町道整備と防災のスピーディーな対策の推進
財 政	優先順位を持った財政運営の推進
経 済	一次産業のさらなる発展への提言
	漁業者へのやさしい対応と漁獲量につながる新たな提言
	農業者へのやさしい対応と後継者育成

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
経 済	新型コロナウイルス感染症対策（人的支援・町内経済支援）
福 祉	町民が安心安全な町づくりとサポート体制
教 育	福島商業高等学校存続対策
	今後の小学校のあり方（福島小学校と吉岡小学校の統合）
	文化・伝統を後世に残すための取り組み（四ヶ散米行列、奴行列、荒馬、七福神等）
その他	今後の「道の駅」のあり方
	各種行事への積極的な参加
	各種団体と協力し、経済効果に繋がる集客力が期待できるイベントへ発展させるための提言
	松前半島高規格道路整備の推進
	観光客を増やすためのPR（岩部クルーズ・両記念館等）
	インターネットを使つての報告（YouTube、Twitter、Zoom）

〔 小 鹿 昭 義 〕



分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	一人ひとりが輝く、みんなが主人公のまちづくりへの提言
	第2青函トンネルの構想実現
	新しい風を吹き込み、安全安心で安定したまちを構築し、町民と共に未来に向かうまちづくりへの提言
財 政	財政歳入歳出の更なる透明化の向上を図り、健全な町運営を推進
	経費全体についての見直しを行い、予算編成の見直しを提言
経 済	農業、漁業、水産、林業、商工業、観光などの地場産業の振興の推進

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
経 済	自然、文化、歴史など、まちの特性を活かした広域観光の事業の推進
	新卒者や求職者のための雇用の場を確保するため企業誘致の推進を提言
福 祉	お年寄りや身体の不自由な方の要望に応じていく仕組みの確立化を推進
	子どもたちの社会教育の充実を目的に、お年寄りとの交流機会を推進
教 育	低学年向けにネイティブでやさしい英会話教育の場を提言
その他	家庭、学校、社会が連携した町民主体の文化、スポーツ活動を支援し、自ら学ぶ意欲と個性を伸ばしていく教育を推進
	町民の目線に立ち、町議、町職員と共に、話し合い、「町民のためになるのか。ならないのか。」を見極め、課題に取り組む

〔 平 野 隆 雄 〕



分野	具 体 的 な 目 標 項 目
行 政	第2青函トンネル構想推進の実現へ
	町内景気の活性化推進で交流人口増
	福島川改修事業の早期実現
財 政	財政調整基金の活用
	町立診療所運営の健全経営実現
	各町内会館の再編推進

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
経 済	養殖コンブ製品増の推進
	蝦夷アワビ（養殖）の新たな商品開発推進
	スルメ加工以外の商品開発推進
福 祉	超高齢化と超人口減少に対する町づくりの提言
	吉岡温泉ゆとらぎ館新築の早期実現へ
	がん検診の検診率向上推進
教 育	少子化の中の教育行政推進
	学芸員配置で縄文土器等による町づくりで交流人口増
	福島商業高等学校入学増の推進
その他	学校等における相撲人口増で横綱の里推進
	岩部海岸クルーズ中心の交流人口の活性化推進
	伊能忠敬公園の観光客増に向けたPR推進

分野	具 体 的 な 目 標 項 目
福 祉	過疎自治体における超高齢化対策に関する調査
	「健康な町づくり」(全町的取組) で医療費の節減
	公立診療所の在り方に関する調査研修
	在宅介護支援体制の整備
	簡易水道料金の見直し (用途別基本水量・水道料金)
教 育	小中学校一貫教育、コミュニティースクールに関する調査研修
	過疎自治体における高等教育推進に関する調査
	「子育て基本条例」制定に向けた取組み(情報収集・研修)
	「自分(達)ですべき事は自分(達)でする」主体性をもった自治活動の推進
	食育・地産地消の推進 (「食育基本計画」→情報周知・実践計画・研修)
その他	わかりやすく、町民が参画出来る議会の実現 (議会基本条例の周知)
	活発な討議(討論)ができる議会の実現
	政策的な提案のできる議会の実現
	幅広い情報収集、積極的な研修参加
	視察の積極的な受け入れ
	ホームページの充実(提案・情報発信・参加型)
	各種行事、研修への積極的な参加

P33 川村議員 ※「入るを量りて出ずるを為す」
収入がどれくらいあるか計算して、それに釣り合った支出を行うこと。

各議員の目標で1番多かったのは「第2青函トンネル構想の実現」に関するものでした。
(写真は第2青函トンネル構想を実現する会で作成したパンフレット)

町民の声

ご当地グルメは？



ウエストリバー
湯浅 哲さん

「ウエストリバー」として、キッチンカーで町外販売しています。そのため、町外・観光客の方と話す機会が増えてきました。お客様が率直な感想は「福島は知られていない」という厳しく、悲しい現実です。そして、GWバスツアー等の方々にとっては「15分だけ滞在の町」となってしまう、トイレに寄るだけという方が多いのが現状です。

「福島は何が美味しいの?」、「ご当地グルメは?」と何度も聞かれますが、即答できません。

このような現実を打破するため、に始まったフードツーリズムプロジェクト。福島町をアピールする「ご当地グルメ」を確立するため、に始められました。

半年や一年で定着するような簡単なことではありませんが、「継続し続ける」ことが一番大切です。飲食店の方々の努力だけではなく、町民一人ひとりが危機感を共有し、協働する意識を持ち続けなければならぬ大きなプロジェクトだと思っています。自分自身のやるべきことは、「継続し続ける」をサポートし続けること。

とにかく前に進みます。

議員の雑感

オープン・シェア



経済福祉常任委員
藤山 大

オープンシェアとは、技術や知識をオープンにして共有することで、お互いのスキルを向上させ、全体のレベルを上げるという考え方です。

スポーツ界では、データ分析の専門家など色々な人達のアイデアが活かされ、あらゆるデータがオープンになってきた事で、誰もがシェア可能となりスポーツ界全体の技術レベル向上につながっております。

日々の生活や活動などにとってもスキルや経験は大切なもので、他人とのシェアには少し抵抗があると思いますが、いいアイディアや知識・経験などをお互いにシェアしていくことで自分自身の成長にもつながると思います。

オープンシェアを意識し、町民の皆様の意見をしっかりと聞き、議会活動をしっかりと伝えてまいりたいと思っております。

議会の主な会議・行事予定

※変更・追加となる場合もあります。

6月14日(月)	一般質問通告	午前10時～午後2時	
	議会運営委員会	午後3時～	委員会室
	・定例会6月会議の運営ほか		
17日(木)	議員勉強会	午後1時30分～	議員控室
21日(月)・22日(火)	定例会6月会議	午前10時～	議会議場
7月20日(火)	議会運営委員会	午後1時30分～	議員控室
	・議会だより編集ほか		

編集後記



例年より相当早く桜前線が通過、暖かく過ごしやすい季節になりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスの影響によって前代未聞の延期となった東京オリンピックの開催を控え、聖火リレーももうすぐ北海道へとまわってくる頃です。

変異株の発生で全国的に感染者の増加傾向が続き、いまだ終息が見えない状況となっておりますが、町内でのワクチン接種も高齢者から順番に始まりました。

一日も早く自粛生活が緩和され、不安が解消されることを願っております。

次回(令和3年8月1日発行)は、定例会6月会議を中心に紹介する予定です。



北方領土返還要求運動
シンボル「千島桜」